

今年はいまだにない夏を経験しました。全国の平均気温は平年と比べ、1.76 度高く、国内の猛暑日の連続記録が更新されました。そして、全国の 9 地点で 40 度以上の最高気温を記録しました。7 月には全国の観測地点 914 地点のうち 144 地点で観測史上最高気温を記録しました。統計のある 1898 年以降で最も暑い夏だったそうです。暑いだけではなく、台風 10 号も特異的なコースと速度となり、豪雨水害や竜巻が発生して各地に大きな被害をもたらしました。各地の医療機関でも浸水による被害が発生しました。台風 10 号が九州に近づき始めた 8 月 28 日には、九州医師連合会の今年度の幹事県医師会である熊本県医師会の災害担当理事と連絡をとっていましたが、幸い JMAT が出ることはありませんでした。

猛暑も台風のコースが変わってきたのも地球温暖化が影響していると言われていますが、この先はどうなるのでしょうか。温暖化により季節折々の風習や文化も変化していくのかもしれませんが。打ち水をして、風鈴の音を耳にしても涼を感じることもなくなり、熱帯夜のビアガーデンでは汗を流しながらジョッキを傾けるのでしょうか。その様なことを考えながら表紙の写真に目をやるとホッと安堵しました。何とか凌いだ猛暑も過ぎると秋がやってきました。春に芽吹き、夏に繁り、秋に紅葉し、冬に落葉する銀杏は地球温暖化の中でも四季折々の姿を見えています。一方、沖縄の銀杏もこの夏には輝いた姿を見せました。うるま市出身、木瀬部屋の美ノ海です。名古屋場所では熱い取り組みをして躍進した姿を見せてくれました。

今年はおリンピックイヤーの夏でした。2024 年パリオリンピック・パラリンピックも暑い夏にしてくれましたが、日本医師会にも熱いニュースがありました。日本医師会の媒体には

日本医師会雑誌や日医ニュース、オンラインでは日医君だよりなどがあります。その中で日本医師会が日本医学会の協力で発行している英文オンラインジャーナル「JAMA Journal」が、ジャーナル・インパクトファクター (JIF) の 1.5 を取得しました。研究や臨床において信頼度の高い貴重な最新の情報源としてますます引用されることを期待しています。

今月号のトピックスのトップは沖縄県の臨床研修医募集定員上限に係る厚生労働省要請です。新聞報道もあったのでご存知の方も多いと思います。本要請は、玉城知事、本竹病院事業局、大屋琉球大学病院長、徳田群生臨床研修センター長、そして本会から平安副会長が上京して連名で濱地雅一厚生労働副大臣に要請書を手交しました。まさにオール沖縄での要請でした。しかし、その後の状況については、令和 6 年度第 1 回沖縄県・沖縄県医師会連絡会議報告の中の「沖縄県における医師確保の基本方針の確認について」で、本会からの質問に対する県からの回答で触れられています。医師偏在指標が導入されたために現時点では沖縄県は医師多数県に位置付けられており、このことが大きな壁となっている様です。

書き出しの四方山話が長過ぎてしまい、紙面の関係上で全ての記事をご紹介しますが出来ませんでした。今月号も会員の皆様にとって大切な CONTENTS になっています。診療の合間や秋の夜長にぜひご一読下さい。

広報委員 出口 宝